

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立大川内小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・モジュール学習による基礎学力の定着や体育科を中心とした対話的な学びあいの授業が成果を上げており、今後も継続させ、児童に力をつけさせなければならない。 ・心の教育・人間関係づくりが良好なのは、縦割り活動や交流活動を通して思いやりや社会性が十分に育成されている。いじめの未然防止・早期対応が機能していると言える。 ・地域と連携した教育活動が強みである。「地域を大切に思う気持ち」「感謝する気持ち」を地域の人・もの・ことに触れながら育成している。 ・情報モラルや生活習慣、働き方改革には今後の課題が残る。
2 学校教育目標	笑顔で元気な大川内っ子の育成～楽しく学ぶ子 やさしい子 たくましくやりぬく子 ふるさとを愛する子～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・モジュール学習等での基礎学力の定着。体育科を中心とした学び合い活動の広がり。 ・地域の「人・もの・こと」と連携した教育活動を展開し、地域のよさを誇りに思い、成長していくことに喜びを感じる児童を育成する。 ・いじめの未然防止と早期発見、情報モラルに対する危機意識を学校だけでなく、保護者、地域を巻き込んで高める。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価				
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		学校関係者評価 意見や提言
●学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ○自分の考えをもち、考えを広げたり深めたりするための対話を取り入れた学び合い活動やICTを活用した授業の充実	○業者テストで平均80以上。 ○対話を取り入れた学び合い活動を校内研究の中心に位置づけ、授業の中で取り入れることができた教師85%以上。 ○ICTを活用した授業を行っていると回答した教師80%以上。	・モジュール学習に取り組み、基礎的・基本的な知識及び技能の向上を図る。 ・校内研究教科の体育科を中心に児童が自らの考えをもち、仲間との対話で学びを深化させる授業を意識し、取り組み、他教科でも取り組む。 ・ICTを活用した授業の研修会を開いたり、積極的に活用している授業を参観したりしてICTを活用した授業スキルの向上を図る。						(学力コ) (研究主任)	
	●心の教育	○交流中、交流後にもつ感想において、誰もが交流した相手に対し、思いやりのある気持ちや相手を敬う気持ちなどを表現することができる児童の割合85%以上。 ○いじめの未然防止、早期発見、早期解決、再発防止に努める。 ○「学校が楽しい」と回答する児童の割合が90%以上。	・異学年交流である縦割り活動や伊万里特別支援学校との交流、なかよしタイムなどを行う中で、相手を思う、思いやりや敬いの気持ちを育む。 ・月1回の「心のお天気アンケート」や年2回の「いじめ・教師の指導アンケート」、そして普段の関りから、児童の学習、生活、友人関係等における悩みなどの把握に努める。 ・アンケート実施後、気になる児童についてはすぐに対応し、職員連絡会などで情報共有する。 ・家庭との連携を図るうえで、SCやSSWを効果的に活用していく。						(特支コ) (道徳推進教員) (生活指導) (教育相談)	
●健康・体づくり	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に良い食事をしている児童90%以上	・栄養教諭と連携し、低中学年を中心に食育の授業を実施する。 ・保健だより等で年間を通して食育を通した健康づくりを呼びかける。 ・朝食喫食率を95%以上目指す。						(保健)	
	○望ましい生活習慣の形成	○中学校のテスト期間に合わせ、「SNSを利用した動画視聴削減週間」を設け、守ることができた児童が年度始めのアンケート時より1割以上増加。 ○アンケートで「外で遊んだり運動したりするのが好き」と回答する児童が85%以上。	・便利さだけでなく、スマートフォンなど情報機器の長時間使用等が心身へ及ぼす影響について指導する。削減週間を受け、アンケート調査を行う。 ・なかよしタイム(縦割り活動)や体育科の授業で運動に親しませ、体力の向上を図る。						(体育)	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・金曜日を定時退勤日とし、定時退勤を推奨する。 ・平日は19時を目安、また、月45時間以上の超過勤務が生じないように呼びかける。 ・長期休業期間を中心に年次休暇の取得を呼びかける。						(教頭) (教務) 各担任	
	○会議、事務の効率化	○会議の超過時間「0」を目指す。 ○会議資料等を校務サーバー内に置き、供覧したり、アンケートをデジタル化したりして昨年比1割削減を図る。	・資料の事前配布、事前に読んでおくことの徹底、会議開始、終了時刻厳守の継続。 ・校務分掌や授業の教材等を校務サーバーに保存し、有効活用する。						(教頭) (教務) 各担任	
●特別支援教育の充実	○特別な配慮を要する児童に対する個別の支援計画、指導計画に基づいた支援	○週に1回の職員連絡会や職員会議、職員研修等で、特別な配慮を要する児童について共通理解を図るとともに、専門家の指導を通して理解を深める。	・特別な配慮を要する児童をリストアップし、丁寧な見取りを行う。 ・夏季休業中に専門家を招聘しての研修を行い、個別の支援計画、指導計画について見直しを行う。 ・児童の現状を保護者と共有し、望ましいと考えられる就学について考える。						(特支コ) (特支) (教頭)	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価			主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		学校関係者評価 意見や提言
○ふるさと学習の充実	◎地域の「人・もの・こと」とふれあい、そのよさを感じ、地域を大事にする心を育む教育	◎地域の「人・もの・こと」に愛着を持ち、大切にしていきたいと感じる児童を90%以上にする。	・田んぼの学校、各学年の発達に応じたふるさと学習、見守り隊の方とのふれあい等のよさに気付かせる。また、感謝の会を通して地域の方への感謝の気持ちを育む。 ・コミュニティスクールを活用し、学校と地域が一体となった活動等に取り組み、郷土への誇りを培う。							(教務) (教頭)
○危機管理の強化	○交通安全等の指導 ○情報モラルの指導	○「交通安全に気を付けている」と思う児童、「危険から身を守る能力が身に付いている」と思う保護者を80%以上。 ○情報モラルについて、十分に理解できている児童を90%以上。	・地域の見守り隊の協力も得ながら、交通ルールについての声かけを常日頃行う。 ・交通教室、集団下校において、繰り返し、交通安全についての話を行う。 ・アンケートを実施し、児童のインターネット機器や環境についての実態を把握する。また、保護者と児童向けに情報モラル教室を行う。						(生活指導)	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	